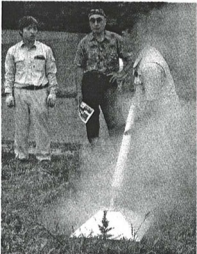


2009年6月25日

日本農業新聞 掲載



フードから蒸気を吹き付け除草する（24日、茨城県稲敷市で）

蒸気除草機を開発

薬剤不要、回数も減

静岡の
メーカー

農業用ボイラーメーカーの丸文製作所（静岡県

浜松市）は、コンパクト型蒸気除草機を開発した。土壌消毒用の蒸気を除草に応用したもので、80度以上の蒸気で雑草の種子や根茎まで枯死させる。従来の草刈り機によ

る作業に比べ、除草剤を使わず、除草作業の回数も大幅に軽減できるとしている。7月中旬に販売を始める予定。

発生させる機械に耐熱・耐圧のゴムホースを取り付け、蒸気を雑草に直接吹き付ける。ホースの先にフードを付け、蒸気熱を効果的に雑草に行き渡らせる。雑草は蒸されて

枯れる。

同社は茨城県内の農家から、土壌消毒用の蒸気を除草に使いたいとの要望を受け、軽トラックに積載できるコンパクト機を開発。従来の蒸気土壌消毒機は大型で除草作業用には向かなかった。

運転時の重量は約400キロで、機械本体から約100キロ先までホースが伸びる。1時間の作業（灯油で11・4リットル消費）

で、雑草の種類や背丈によって違うが、130～500平方メートルの除草が可能。

実演会に参加した筑西市の農業生産法人は「ニンジンには播種（はしゅ）後に生えてくる雑草に気を使う。蒸気除草なら種子ごと根絶できる」と期待する。有機栽培に取り組み団体は「除草剤を使用しなくて済むので、環境に優しい。費用など効果が実証されれば、行政でもPRしてほしい」と話す。

問い合わせは、☎053(471)9197。